

科目名	外科学概論 1							年度	2026
英語科目名	Overview of Surgery 1							学期	前期
学科・学年	柔道整復科 3年次	必/選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	富田 泰彦	教員の実務経験		有	実務経験の職種		医師（病院にて勤務）		
<b>【科目の目的】</b> 外傷を専門とする柔道整復師にとって必要不可欠な外科学における基本的知識の習得を目的とする。									
<b>【科目の概要】</b> 外科的治療の基礎と具体的方法を学びます。									
<b>【到達目標】</b> 外科学を学ぶことで、創傷治療、感染の知識、抗菌薬の使用法、各種栄養管理法を中心とした術前術後管理の知識、臨床病理学的知識とこれに基づいた切除検体の取り扱い、術後患者の長期経過における各種機能障害の予防法と治療法などの知識が深められる。また、心肺蘇生法を学ぶことで要救助者に対して、今や一般市民も行える一次救命処置（BLS）の気道確保・人工呼吸・胸骨圧迫について熟知することが到達目標となる。									
<b>【授業の注意点】</b> 国民の健康に寄与する医療人の育成であることを重視する。全授業の出席を原則とする。正当な理由なき欠席・遅刻・早退は認めない。また、授業中の態度（私語・飲食・居眠り）には厳しく対応する。常に医療現場にて患者に適切な対応ができるマナーを身につけるような心掛けを求める。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	損傷（頭部外傷・胸部外傷など）について完全に理解している。	損傷（頭部外傷・胸部外傷など）について大理解している。	損傷（頭部外傷・胸部外傷など）について部分的に理解している。	損傷（頭部外傷・胸部外傷など）についての理解がやや不足している。	損傷（頭部外傷・胸部外傷など）について理解していない。				
到達目標 B	創傷や熱傷について完全に理解している。	創傷や熱傷について大理解している。	創傷や熱傷について部分的に理解している。	創傷や熱傷についての理解がやや不足している。	創傷や熱傷について理解していない。				
到達目標 C	ショックについて完全に理解している。	ショックについて大理解している。	ショックについて部分的に理解している。	ショックについての理解がやや不足している。	ショックについて理解していない。				
到達目標 D	炎症と外科感染症について完全に理解している。	炎症と外科感染症について大理解している。	炎症と外科感染症について部分的に理解している。	炎症と外科感染症についての理解がやや不足している。	炎症と外科感染症について理解していない。				
到達目標 E	腫瘍・輸血について完全に理解している。	腫瘍・輸血について大理解している。	腫瘍・輸血について部分的に理解している。	腫瘍・輸血についての理解がやや不足している。	腫瘍・輸血について理解していない。				
<b>【教科書】</b> 教科書は「外科学概論」を持参する。その項目ごとに資料を配布する。									
<b>【参考資料】</b>									
<b>【成績の評価方法・評価基準】</b> 試験と課題を総合的に評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		外科学概論 1			年度	2026
英語表記		Overview of Surgery 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	損傷	損傷の分類を理解する。	1 狭義の損傷とは	機械的損傷と非機械的損傷に分類される	3	
			2 創傷とは	創と傷に分類される		
			3 熱傷とは	熱による体表（皮膚、粘膜）の損傷をいう		
2	熱傷①	9の法則、5の法則、デブリドマンなどを理解する。	1 9の法則とは	身体各部位の面積が体表面積の9%または2倍の18%と換算する方法	3	
			2 5の法則とは	乳幼児に用いる熱傷範囲の診断		
			3 デブリドマンとは	Ⅱ・Ⅲ度熱傷では包帯交換時に創面を覆う壊死組織を可能な限り除去すること		
3	熱傷②	様々な合併症や特殊な部位の熱傷その他を理解する。	1 合併症の種類	熱傷性ショック、免疫不全と感染、ストレス潰瘍、栄養障害、急性腎不全	3	
			2 特殊な部位の熱傷	気道熱傷、顔面の熱傷、手の熱傷		
			3 その他	電撃症、低温熱傷、化学熱傷		
4	頭部外傷・腹部外傷	発生機序・分類・症状・診断・治療を理解する。	1 頭部外傷の種類	頭蓋軟部損傷、頭蓋骨骨折、頭蓋内出血、脳震盪	3	
			2 頭部外傷の救急対応	脳損傷の有無を確認が最も重要		
			3 腹部外傷の分類	発症機序から鈍的外傷と鋭的外傷に分類		
5	胸部外傷	発生機序・分類・症状・診断・治療を理解する。	1 発生機序	多くがハンドル外傷の型	3	
			2 診断	胸壁動揺に注意を要する		
			3 救急処置	胸部X線撮影が有効である		
6	ショック①	分類と各商状・病態・治療を理解する。	1 ショックの定義	組織を灌流する血流が低下し正常な細胞活動ができなくなった状態	3	
			2 循環血液量減少性ショック	ショックの5P症状が当てはまる		
			3 心原性ショック	心臓そのものの機能に原因があるショック		
7	ショック②	AEDによる心肺蘇生などを理解する。	1 血液分布異常性ショック	末梢毛細血管まで十分に血液がいきわたらない状態を示す	3	
			2 閉塞性ショック	心タンポナーデ、緊張性気胸、血胸、肺塞栓症などで起こる		
			3 ショックの救急処置	まず呼吸しているか、脈拍が触れるかを判断		
8	振り返り	前期1回～7回の講義の振り返り。	1 損傷の分類	狭義の損傷、創傷、熱傷	3	
			2 熱傷範囲の診断	9の法則、5の法則、首相法		
			3 ショックの定義	組織を灌流する血流が低下し正常な細胞活動ができなくなった状態		
9	炎症と外科感染症①	定義・分類と外科的感染症を理解する。	1 炎症とは	外的刺激に対して特に生じた生体防御反応	3	
			2 感染症とは	微生物が生体内に侵入し、定着・増殖して炎症を引き起こしたものの		
			3 感染症の分類	細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症		
10	炎症と外科感染症②	外科的感染症の種類を理解する。	1 膿瘍とは	膿が限局性に貯留したもの	3	
			2 蜂巣炎とは	疎性結合組織の中を拡大進行するびまん性急性化膿性炎症		
			3 動物刺咬傷とは	動物による刺傷や咬傷（代表例は狂犬病）		
11	腫瘍①	概念と良性・悪性腫瘍の形態的比較を理解する。	1 腫瘍とは	合目的性のない自律性に増殖する細胞集団をいう	3	
			2 腫瘍の分類	上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍をさらに良性と悪性に分類する		
			3 良・悪性腫瘍の比較	発育形式、発育速度、境界、形態、転移など		
12	腫瘍②	主な良性・悪性腫瘍の種類と病期分類を理解する。	1 主な良性腫瘍の種類	上皮性：乳頭腫など、非上皮性：脂肪腫など	3	
			2 上皮性悪性腫瘍（癌）	扁平上皮癌、腺癌、移行上皮癌、未分化癌		
			3 非上皮性悪性腫瘍（肉腫）	骨肉腫、筋肉腫、悪性リンパ腫など		
13	輸血、輸液	輸血の基礎知識と適応・実際を理解する。	1 全血輸血の適応	主たる目的は失われた循環血液量の補充	3	
			2 失血とは	出血のため多量の血液を失うことをいう		
			3 輸液とは	一定量の輸液薬を血管内に投与すること		
14	振り返り	前期9回～13回の講義の振り返り。	1 炎症とは	外的刺激に対して特に生じた生体防御反応	3	
			2 感染症とは	微生物が生体内に侵入し、定着・増殖して炎症を引き起こしたものの		
			3 腫瘍とは	合目的性のない自律性に増殖する細胞集団をいう		
15	外科学概論1のまとめ	前期外科学概論1全体の振り返り。	1 熱傷とは	熱による体表（皮膚、粘膜）の損傷をいう	3	
			2 ショックの定義	組織を灌流する血流が低下し正常な細胞活動ができなくなった状態		
			3 失血とは	出血のため多量の血液を失うことをいう		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等